

## 1. 当倶楽部の概要

畑ヘルパー倶楽部<sup>®</sup>(代表・見掛加奈<sup>みかけかな</sup>)は、見掛が抱いた、日本の食の安全性や自給率の低下に対する危機感がきっかけとなり、2016年に援農ボランティアを主体としたソーシャルビジネス団体として奈良市で発足しました。奈良市北部の田原地区にある茶農家の支援からスタートし、試行錯誤を重ねながら現在は奈良県内の農家13軒を対象に、約180名の畑ヘルパーがボランティアで随時活動しており、一度でも参加したことのある方を含めると300名を超えます(2024年1月現在)。

広く宣伝をしていないにも関わらず、当倶楽部の登録畑ヘルパー数は年々増え続け、人々の自然の中での活動や農業への関心の高さが窺えます。農家からは「畑ヘルパー倶楽部の援助がないと、もはや営農できない」との声が聞かれます。農家からの問い合わせも増え続け、県外の農家からも援助してほしいという切実な声が届きます。また、行政や福祉業界・各種団体・個人からの問い合わせのみならず、新奇の取り組みとしての話題性からメディアの取材もあります。これらの反響は、なんらかの形で農業に携わりたいと思う個人の潜在的なニーズと社



活動のメインエリア、奈良市田原地区の茶畑で草取りのお手伝い

## まちむら発見②

# 食べ物、自然、人とのつながりを大切に —それぞれが輝く地域に、人になるために

奈良県奈良市 畑ヘルパー倶楽部<sup>®</sup>

会の課題が、うまくマッチした結果だと考えています。

## 2. しくみ

安全性の高い食料の継続的な確保を目的にボランティアで農家を手伝い、その謝礼として、畑ヘルパーは減農薬や自然農法で作った野菜・米・お茶・果物などの農産物をいただきます。

農家は謝礼を農産物で提供するため、金銭的負担が少なくすみ、また畑ヘルパーは、顔の見える農家から旬のおいしい作物を直接受け取れる喜びがあります。さらに事務局に、畑ヘルパーの斡旋料として農家から農産物をいただき、それを販売することで運営経費を賄います。まさに「三方よし」のソーシャルビジネスだと自負しています。

また、当倶楽部が農家と畑ヘルパーの仲介をすることで、農家が直接、求人をする負担やトラブルの回避にも貢献しています。WEBで畑ヘルパーの希望参加日を募り、事務局が農家からの希望をまとめて行先を決めます。LINEでお手伝い先の連絡や作業内容に関係者間でシェアするなど、スマホを活用して運営しています。

## 3. 畑ヘルパー

年齢構成は10代〜80代と幅広く、奈良県のみならず近隣の大阪や京都からも参加されています。農作業の初心者が65%に上り、なにかしらの形で農業に関わりたいと思う人の最初の一步となっています。また、畑ヘルパー同士の世代を超えた交流やコミュニケーションも盛んで、年輩畑ヘルパーの生きがいや健康増進の場にもなっています。

## 4. 活動地域

奈良時代から都への食糧基地として米作りをしてい

た奈良市田原地区を中心に活動しています。同地区は米以外にもお茶の栽培が盛んです。

しかし、昭和をピークに徐々に茶の生産量は減り、若者が地域を離れ高齢化が進み、荒れた茶畑が目立つ地域となりました。やりがいがなく希望がないと嘆く農家を盛り上げないと食べ物を作ってくれる人がいなくなり、ますます地域の荒廃が進むと危惧し、まずは2軒の茶農家からお手伝いを始めました。農家間のクチコミで評判が広がり、現在は天理市や河合町まで広がり、計13軒を支援しています。

### 5. お手伝い

【作業内容】草取り・茶刈り・初まき・種まき・摘果・収穫などの農作業や、干し柿・梅干し・かきもちなどの加工品づくりの補助。

【活動日・時間】週4日(火・木・土・日)活動。農家は毎日。1年を通して活動しています。時間は9時半〜16時。半日の参加もできます。サマータイムは午前のみ。

### 6. コロナ禍を受けて

特筆すべきは、2020年のお手伝い回数が年間224回、月平均18.6回だったのに対し、2021年は年間395回、月平均33回と、前年比76%という驚異的な伸び率で増加したことです。2022年はさらに増え、年間のお手伝い回数は417回、月平均35回となっています。これはコロナ禍の中りモートワークや外出自粛によって人々の行動が制限された結果、その反動で自然の中で豊かな時間を過ごしたいと思う人や自身を振り返る時間ができ、食べ物にも関心が増えたことが原因です。コロナ禍による閉塞感、食料価格の高騰が不安視される中で、自然の中で体を動かし、



竹細工が盛んだった田原地区。竹籠が編める地区 唯一の農家に弟子入りし技術を伝承すべく奮闘中  
年末恒例、餅つき大会。農家のお父さんが、地域に伝わる餅つき歌を披露する

おいしく安全な食べ物に触れたいという人の潜在的な欲求が見直された結果だといえます。

### 7. 援農に留まらない活動のひろがり

本活動が畑ヘルパーの生きがいや居場所となっただけでなく、を通して田原地区の人との交流が盛んになり、地域のイベントをお手伝いするようになりました。以下、援農を超えたひろがりです。

- ・採れたての自然農法の野菜を使った料理教室や、自然の中の婚活イベントなども開催しています。
  - ・地域のひととの交流が進み、畑作業のお手伝いを通じて独居老人の見守りなども検討しています。
  - ・農産品の販売市など地域でのイベントも開催し、市街の人を呼び込み、田原地区の認知度を高めています。
  - ・増え続ける農家の依頼に応えるべく活動エリアを分け、各エリアに対応した支部の設立準備も進めています。
  - ・風光明媚な里山や美しく手入れされた茶畑での労働にストレス軽減の効果があることを、科学的な手法で検証中です。
  - ・農家を手伝うことで、適度に汗をかく農作業により心身がリフレッシュできるうえ、農業が地域の風土に合わせた文化や技術も含めた総合的な営みであることの理解と体験が深まりました。
- 市街から多くの方が同地区を訪れることで、地域の人たちは自分たちの農業・景色・知恵、地域の素晴らしさを見直すきっかけとなりました。結果として、畑ヘルパーと地域の人々が互いに助け合い、感謝しあう幸せな循環ができています。

(畑ヘルパー倶楽部 内田志保)